



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学人文科学論集総目録
Citation	北海道大学人文科学論集, 24, 103-110
Issue Date	1986-03-17
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/34383
Type	departmental bulletin paper
File Information	24_PL103-110.pdf



北海道大学人文科学論集総目録

第1号～第24号

〈著者名の後に付した数字のうち括弧内は横書き論文のページを示す〉

第1号 1962年

- 明代の茶業と国家統制 佐久間 重 男 1～44
- マルクス主義哲学における「意識」の意義について
——唯物論的心理学の出発点としての—— 河 西 章 45～80
- 法則論のころみ(第1) 秋 間 実 (1～84)

第2号 1963年

- 「足跡」の位置
——秋声像の一側面—— 和 田 謹 吾 1～16
- 社会学における地域理論の展開
——地域(Region)の概念と地域研究の方法を中心として——
..... 笹 森 秀 雄 17～106
- 「スキピオの夢」研究 池 田 英 三 (1～32)
- Zilsel ならびに Löwith の見解について
——前稿「法則論のころみ(第1)」補説—— 秋 間 実 (33～40)

第3号 1964年

- 初期ヴァロア朝の「政治危機」について
——「国王顧問会」と「身分制議会」—— 井 上 泰 男 1～38
- スピノザ哲学と弁証法的唯物論(一)
——スピノザ哲学の源泉の問題をめぐる—— 河 西 章 39～63
- 汪中と国史儒林伝稿
——清代揚州の文学の研究 序説—— 近 藤 光 男 64～89
- カパネの制度に関する新研究序説(上) 北 村 文 治 90～137
- 現代スコラ的自然法論の構造 秋 間 実 (1～11)

第4号 1965年

明初の日中関係をめぐる二、三の問題

——洪武帝の對外政策を中心として—— 佐久間 重 男 1~ 46
スピノザ哲学と弁証法的唯物論(二)

——その汎神的自然観の基本的性格をめぐって—— 河 西 章 47~ 67
概念形成における選択方略について

——行動論的選択方略論による実験的検討—— 寺 岡 隆 (1~ 25)
イギリス・マナー体制下の農家構成とその規模に関する史料

——リンカンシャー在スポールディング小修道院領,
13世紀後半作製の戸籍—— 篠 塚 信 義 (26~ 49)

第5号 1967年

『フランス・百科全書』の基本的立場 河 西 章 1~ 75
分配標準形について 大 畑 甚 一 (1~ 21)

11世紀から13世紀にわたる西欧における城砦と城主支配圏

..... ロベール・ブートリュッシュ (22~ 35)
井 上 泰 男 訳

ある現代思想家 秋 間 実 (36~ 71)

カバネの制度に関する新研究序説(中) 北 村 文 治 (76~ 97)

第6号 1968年

近松秋江論

——後期自然主義文学の発端—— 和 田 謹 吾 1~ 25

『転換の思想』序説 奥 山 次 良 26~ 47

非対称的結合子Tをもつ論理系について 大 畑 甚 一 (1~ 17)

民主ドイツの自然科学論

——60年代初頭まで—— 秋 間 実 (18~ 58)

第7号 1969年

潜研堂詩注 近 藤 光 男 1~ 37

「散文芸術」論の問題 亀 井 秀 雄 38~ 62

『偶像再興』をめぐって

——「転換の思想」第一章—— 奥 山 次 良 63~ 82

形態素分析に関する一考案	田 中 利 光	(1~ 43)
第 8 号 1971 年		
明代中期の対外政策と日中関係	佐久間 重 男	1~ 23
サルトル哲学に対する一つの視点	河 西 章	25~ 46
『間柄』の倫理と『種の論理』		
——「転換の思想」第二章——	奥 山 次 良	47~ 68
ソシュールの言語理論に関する若干の考察		
——「変形文法」理論との関連で——	田 中 利 光	(1~ 24)
第 9 号 1972 年		
‘King’s clerks’ に関する二つの試論	東 出 功	1~ 31
影 の 影		
——プラトンの著作に関する一考案——	水 野 一	33~ 44
「神々の闘争」について		
——「転換の思想」第三章——	奥 山 次 良	45~ 71
ニーチェとオーヴェルベックとの往復書簡 (1871~1879)	古 内 武	73~188
第 10 号 1973 年		
源氏物語論		
——女三宮の降嫁をめぐる——	大 朝 雄 二	1~ 66
行尊大僧正論 (上)		
——生涯と作品——	近 藤 潤 一	67~133
『子 夜』論		
——中国近代小説の限界——	中 野 美 代 子	135~181
ニーチェとオーヴェルベックとの往復書簡 (二)		
——1880 年から 1883 年まで——	古 内 武	183~289
北海道の地名 (序論)		
——地理学からの接近——	小 林 和 夫	291~313
第 11 号 1974 年		
『Human Relations Approach』の展開と思想史的意義	大 山 信 義	1~ 41
ディルタイにおける形而上学の問題		
——『転換の思想』第四章——	奥 山 次 良	43~ 58

ニーチェとオーヴェルベックとの往復書簡 (三)	古内 武	59~123
——1884年から1886年まで——	小林 和夫	125~147
「東西蝦夷山川地理取調図」における地名分布について	Isao HIGASHIDE	(1~37)
Bishops of England and Their Connection	Takashi YAMAGUCHI	(39~47)
with the King, 1272-1485 (Part One)		
Japanese Geography : An Overview		
音韻変化について	田中 利光	(49~63)
——古代ギリシャ語の二・三の母音変化などをめぐって——		

第12号 1975年

ニーチェとオーヴェルベックとの往復書簡 (四)	古内 武	1~55
——1887年から1889年初頭まで——		
Bishops of England and Their Connection	Isao HIGASHIDE	(1~22)
with the King, 1272-1485 (Part Two)		
地域医療の構造分析	大山 信義	(23~63)
集落内の言語差	井上 史雄	(65~101)
——下北半島上田屋——		

第13号 1976年

佐々木味津三試論	神谷 忠孝	1~11
——初期作品について——		
行尊大僧正論 (下)	近藤 潤一	13~77
——生涯と作品——	宮本 勝中	79~94
五経博士について	井上 史雄	(1~123)
道南浜ことばにおける共通語化のパターン分類		
Changes of the General Activity Level Observed during Classical	Takashige IWAMOTO	(125~139)
Conditioning with Alimentary Reinforcement in the Albino Rat		
ニーチェの梅毒意識	古内 武	(141~176)
日本古代史研究の過去と現在	佐伯 有清	(177~190)
マルコ福音書IV・10-13について	田中 利光	(191~226)

第14号 1977年

通俗読物編刊社とその文芸運動	藤 本 幸 三	1~ 18
斉物と観物	松 川 健 二	19~ 29
明治維新	田 中 彰	31~ 45
輪郭線輝度分布の明るさ知覚に及ぼす影響	濱 田 治 良	(1~ 16)
ギ=フルカン「領主制と封建制」 ——比較研究のための覚書き——	東 出 功	(17~ 44)
動物の社会的行動についての実験的研究 ——シロネズミのオペラント条件づけ事態における 協同行動の学習過程——	岩 本 隆 茂	(45~ 78)
Sur la situation actuelle de l'enseignement de la philosophie au Japon	Akira KASAI	(79~ 86)
実験ゲームにおける交渉過程の研究	篠 塚 寛 美	(87~133)
《いく・くる》について	城 田 俊	(135~142)
オーストラリアの北部開発論における開発目的と計画地域	谷 内 達	(143~158)

第15号 1978年

中国近代経営史研究覚書

——クオ・ヘン・シー稿「中国近代ビジネス

階級の初期発展」の紹介と検討——	中 井 英 基	1~ 22
岑参の辺塞詩についての覚書	野 澤 俊 敬	23~ 54
指示代名詞の指示機能について	今 井 四 郎	(1~ 16)
マカク属サルにおける遅延選択反応と 前頭葉背外側部の神経細胞のユニット活動	岩 本 隆 茂	(17~ 42)

第16号 1979年

〈資 料〉

日本のダダイズム(1920~1922)	神 谷 忠 孝	1~ 43
蘇軾「故周茂叔先生濂溪」詩について	松 川 健 二	45~ 56
清末中国綿紡績業について ——民族紡不振の原因再考——	中 井 英 基	57~ 76
人参果考 ——『西遊記』成立史の一断面——	中 野 美代子	77~ 95
『限定された否定の助力』 ——Th. W. アドルノの業績について——		

イルゼ ミュラー・シュトレームスデルファー	奥山・谷口 鈴木・橋本	訳 97~122
国語動詞の活用(語形変化)	城田 俊	123~152
Development of the Transport Network and the Urban System in Hokkaido, 1879~1975	Toru TANIUCHI	(1~ 22)

第17号 1980年

フランクフルト学派研究資料

I Th. W. アドルノ『否定の弁証法』序論	奥山・横松・白石 石・鈴木・橋本	訳 1~ 46
II アドルノの翻訳について	奥山 次良 谷口 孝男	47~ 56
ロックにおける自己保存について(I)	八木橋 貢	57~ 72
同時進行型手続きによる動物における観察学習の研究	岩本 隆茂	(1~ 22)
The Development of Hokkaido's Urban System	Masataka HATANO Makoto YAMADA	(23~ 34)
ἵνα と μήποτε	田中 利光	(35~ 49)

第18号 1981年

李贄と焦竑	松川 健二	1~ 10
倭名類聚抄諸本の系統推定 ——十卷本卷三〜六を中心に——	宮澤 俊雅	11~ 31
源氏物語続篇の研究 ——薫像の定立をめぐる——	大朝 雄二	33~ 49
フランクフルト学派研究資料(二)		
(III) J. ハーバーマス教授講演記録	奥植 山次良 今井 道夫	51~ 70
(IV) Th. W. アドルノ『批判』	奥白 山次良 石 達男	訳 71~ 78
(V) Th. W. アドルノ『いくつかの見地』(一)	奥橋 山次良 本 信	訳 79~ 88
ロックにおける自己保存について(II)	八木橋 貢	89~107
イギリスの中央行政機関における長官職 ——1272年から1485年まで(上)——	東出 功	(1~ 29)
ヒトの複合低頻度分化強化(DRL)スケジュール		

における時間弁別行動	岩 本 隆 茂 吉 野 弘	(31~ 54)
------------------	------------------	----------

第19号 1982/83年

「家牒」についての一考察	佐 伯 有 清	1~ 14
倭名類聚抄二十巻本成立の一過程	宮 澤 俊 雅	15~ 27
フランクフルト学派研究資料 (三)		
(VI) 合理化の弁証法		
——ハーバマスとの対話——	奥 山 次 良 渡 辺 祐 邦 ^訳	29~ 66
ネズミの複合 DRL スケジュールにおける外部手掛け刺激と 反応の分化	吉 野 弘 岩 本 隆 茂	(1~ 28)

第20号 1983/84年

故奥山次良教授追悼および業績		1~ 3
南方徴用作家	神 谷 忠 孝	5~ 31
源氏物語・橋姫三帖の構造	大 朝 雄 二	33~ 59
“King's clerks” の下限考		
——“King's servants” 考 (序) ——	東 出 功	(1~103)
分解型2人PDゲームにおける認知と選択行動	篠 塚 寛 美	(105~137)

第21号 1984年

現象学的社会学とその宗教論	宇都宮 輝 夫	1~ 22
反応依存変容型強化スケジュールとその効用	岩 本 隆 茂 吉 野 弘 川 俣 甲子夫	(1~ 58)
ある仕上工の生活史と造船業労使関係		
——面接の記録と解説——	大 山 信 義	(59~126)

第22号 1984年

Workers' Participation in Management as an Ambivalent Process : A Japanese Case Nobuyoshi OHYAMA		(1~ 17)
アイヌの季節性の集落, すなわち季節コタンについて	小 林 和 夫	(19~ 52)
行動薬理学の歴史とその最近の展開におよぼす		

オペラント心理学の貢献	岩 本 隆 茂 和 田 博 美	(53~ 83)
第 23 号 1985 年		
時間弁別行動における生理心理学的機構の総合的研究	岩 本 隆 茂 和 田 博 美	(1~ 46)
都市化と高齢者の生活構造	金 子 勇	(47~ 69)
〈資 料〉		
ある船具工の生活史と造船業労使関係 ——口述の記録と注解——	大 山 信 義	(71~158)
第 24 号 1986 年		
『論語』性近習遠章について	松 川 健 二	1~ 20
江戸時代後期における東蝦夷地のアイヌ集落 (一)	小 林 和 夫	21~ 55
日本近代文学におけるフランス	神 谷 忠 孝	57~ 82
南オーストラリア州における 1 エーカーあたり 小麦収量の年々変動の地域差	岩 崎 一 孝	(1~ 16)
武蔵野における古代集落の一考察 ——住居址の構造と変遷——	岡 田 淳 子	(17~ 33)
動物とヒトにおける時間弁別機構についての研究と そのモデル	岩 本 隆 茂 山 田 弘 司	(35~ 99)
『人文科学論集』の終刊にあたって	岩 本 隆 茂 羽 田 野 正 隆	(101~102)
北海道大学人文科学論集総目録 第 1 号~第 24 号		(103~110)